

本日はお忙しいところご参集いただきありがとうございました。

能登半島地震の土木学会災害対策本部長、専務理事の古木でございます。

今回の地震では1名の方がなくなったほか、今も大勢の方が避難所に居られ、家屋やライフラインの被害も深刻です。まずもって心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復旧・復興をお祈りしますとともに、いささかなりともお手伝いできればと存じます。

さて、土木学会では、1995年の阪神淡路大震災における災害調査の経験から、学術団体として専門家による災害の調査、防災機能向上のための研究、基準類への反映、教育普及活動の必要性と有用性を痛感し、災害緊急対応の制度を設立しました。その後2004年スマトラ島沖地震・津波、2005年中越地震、2005年パキスタンの地震、2006年国内各地の風水害などすでに40回近い調査団を派遣し、様々な提言や支援を行ってきております。インドネシアやパキスタンの防災教育や復興のための支援、あるいは中越地震に関連する調査は現在もJICA、大学の研究室等とも協力しながら継続しております。昨年は、さらにこれら活動を強化するNPO「国境なき技師団」の設立に参画し、連携しております。

今回の地震に関しても、日曜日25日朝の発災後、震度6強ということから社会支援部門に災害対策本部を設置し、また関連する委員会との協議・調整をしつつ、地盤工学会と合同で金沢大学の宮島教授を団長とする土木学会・地盤工学会災害調査団の派遣を決定し、皆様にご案内し本日速報会になった次第です。

では以降は、災害調査団に議事の進行をお願いいたします。